

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300765
法人名	有限会社 三井・メディックス
事業所名	グループホーム 上祓川
訪問調査日	平成19年7月26日
評価確定日	平成19年8月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670300765
法人名	有限会社 三井・メディックス
事業所名	グループホーム 上祓川
所在地	鹿屋市上祓川町8469-1 (電話) 0994-40-3082
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年7月26日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 16年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建て	1階	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		600円

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	4	名	要介護4	4	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	88.1歳	最低	68歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田病院 井ノ上病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

のどかな田園風景の中、通りに面して建てられた明るく開放的な雰囲気の家である。「笑顔で満足～あきらめない～」を理念として、「出来るかも知れない」とあきらめずに取り組むことで、オムツが外れたり手添え歩行が可能になったりするなど、改善に結びついている。職員は個別に年間目標を設定しており、月に一回の全員参加の学習会などを通して、専門知識や緊急時の対応について学習している。技術や意識の面での向上によりチームワークも良好となり、入居者の皆さんの穏やかな日々の支えとなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の明示については、皆で話し合いわかりやすくまとめた上で、目に付く位置に掲示し、会議資料にも掲載するなど改善されている。接遇の向上については、学習会のテーマとして取り上げ、入居者の人権や尊厳が侵されないように努めている。市との関わりについては、運営推進会議の開催により、意見交換の機会を確保している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、ミーティングにおいて全員で分担して実施し、外部評価の結果については、学習会のテーマに取り上げて検討し改善に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議を開くにあたっては、事前に詳細な資料が準備されており有意義な会となっている。出席者からは防火用水の件等、貴重な意見が出されているが、それらの記録(議事録)整備が十分とは言えない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「上祓川だより」と「今月の様子」により、ホームや入居者の様子は毎月家族に伝えられている。ご家族からの意見や苦情等は、面会時や家族会の際にお聞きするほか、運営推進会議においてご家族代表の方より意見を出していただいで運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の文化祭や棒踊りの見学に参加しており、その際に地元の人々が車椅子の介助を申し出てくださるなど、交流がなされている。近くの保育園の子供たちが遊びに来ることもある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔で満足～あきらめない～」という理念を職員全員でつくり、入居者の力を発揮できるように働きかけながら日々の介護に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティングの中で常に確認しあい、食堂にも大きく掲示してある。できないだろうとあきらめず、できる事に着目するように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や棒踊りの見学に参加しており、その際に地元の人々が車椅子の介助を申し出てくださいなど、交流がなされている。近くの保育園の子供たちが遊びに来ることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ミーティングにおいて全員で分担して実施し、外部評価の結果については、学習会のテーマに取り上げて検討し改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開くにあたっては、事前に詳細な資料が準備されており有意義な会となっている。出席者からは防火用水の件等、貴重な意見が出されているが、それらの記録(議事録)整備が十分とは言えない。	○	課題の検討過程や懸案事項の確認など、会議のメンバーに継続して共通認識を持っていただくためにも、議事録を整備していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に市担当者に相談しており、市からの実習生の見学を受入れてホームの説明を行っている。地区グループホーム協連絡議会においては、監査、集団指導の際など意見の交流を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「上祓川だより」と「今月の様子」(食事、入浴、排泄、睡眠状況、リハビリ、医療事項、普段の様子など記入)を、毎月家族へ届けている。職員の異動についても掲載されている。金銭は、個別の現金出納帳にて管理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時(遠隔地の家族以外はほぼ毎月)や家族会(行事に併せて開催)を通じて意見、苦情などを聞き、運営に反映している。運営推進会議においても、家族代表から意見が出されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合は、新しい職員に対して、先輩職員が入居者の特徴を個別に伝えて対応の仕方を指導するなど、入居者へのダメージを防ぐように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の学習計画が立てられており、毎月1回は全員参加の学習会が行われている。外部の研修へも積極的に参加し、参加者はその内容を報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会の参加を契機に、他のホームと交流を図っている。ホームの夕涼み会に招待したり、遠足の際の休憩交流(トイレの借用)などを通じて交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設からの場合も自宅からの場合も、本人やご家族に事前見学をお願いしたり、ホームからスタッフが出向いてお話しをするなどして、お互いの状況を理解しながら徐々に馴染んでいただけるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや梅干作り、食器洗いや洗濯物たたみなど、それぞれに得意分野を持っておられ、職員は入居者から教えてもらいながら共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いをゆっくりと聞くように努めているが、言葉で表現することが難しい入居者には、その表情や時々発するわずかな言葉、ご家族の協力等を得ながら、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及びご家族からの意見や情報を踏まえ、担当者会議や職員のミーティングにて意見を交わして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月を基本としながら、3ヶ月毎にモニタリングを行い、必要に応じて介護計画を変更している。その際、本人はもとよりご家族や必要な関係者からの意向や情報を踏まえて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が在籍した医療連携体制をとっており、医療機関との連絡も密に行われている。入院された際、ご家族が遠方の場合は、ホームの職員が洗濯物や身の回りのものを準備している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大部分の方は協力医療機関にて定期的に受診しているが、従来からのかかりつけ医を尊重している。受診には職員が同行してご家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化或は終末期に向けて医療機関との連携のもと、関係者、ご家族と話し合い、対応策について共有している。「看取り介護実施定義」を渡しており、看取り介護についての同意書を準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員のミーティングや学習会など通じ、日常の対応や言葉かけの確認をしてプライバシーの尊重を呼びかけている。個人情報の取り扱いについては、守秘義務を徹底し職員から同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、個人毎にその日の状況に応じて過している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者はそれぞれの状況に応じて、野菜の皮むきに始まり、おしぼりの準備、食器洗いなど分担している。静かな雰囲気の中で、職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午後からの入浴となっているが、本人の希望で一日おきの方もある。いずれの場合も、本人のペースを尊重して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご家族から情報を得て、個々人の状況を把握している。食材の買い物には2日に1回出かけ、食器洗いや洗濯物たたみなども職員と一緒にやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	中庭が広々としており、畑もありゆっくり過ごせるほか、週2～3回の買い物や知り合いがいらっしゃる他のグループホームの訪問、自宅近くへのドライブなど、本人の希望を聞きながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵はかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間を想定した地区消防団との合同避難訓練を行っている。地域の協力を得られており、通報先にも組み込まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分量については、毎日チェック表に記入して個別に把握している。また食事の献立についても、管理栄養士の協力を得て助言を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした食堂ホールにはソファや畳みのスペースがあり、部屋の外にはサンデッキが続いており、居心地よく過ごせる場が確保されている。中庭には家庭菜園があり、季節の野菜が収穫できる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みはさほど多くはないが、写真やぬいぐるみが飾られていて明るい雰囲気である。部屋はきれいに整理整頓されている。		